

「ヤクルトサステナビリティ行動計画」 (2024年度活動結果)

- 対象期間 国内:2024年4月～2025年3月 海外:2024年1月～12月
- 達成度
 - ◎:十分な成果(目安:100点(%)以上)
 - :概ね目標どおりの成果(目安:80点(%)以上100点(%)未満)
 - △:取り組みが不十分(目安:80点(%)未満)
 - ×:取り組みなし(目安:0点(%))

Yakult

E（環境）

■マテリアリティ：気候変動／プラスチック容器包装／水

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
脱炭素社会の実現 ・ 資源循環できる 容器包装への転換 ・	1. 温室効果ガス排出量(国内スコープ1・2)を2024年度末までに2018年度比10%削減	●CO ₂ 排出量 47.1%削減(2018年度比)	◎
	2. (1)プラスチック製容器包装の使用量(国内)を、2024年度末までに2018年度比5%削減あるいは再生可能な素材に転換する (2)容器包装の資材使用量を削減 (3)容器包装の素材変更により環境負荷を低減 (4)容器包装に植物由来の環境にやさしい素材を使用	●プラスチック製容器包装使用量 14.3%増加(再生可能でないもの)(2018年度比)	×
水使用量の削減 ・	3. (1)水使用量(国内乳製品工場:生産量原単位)を2024年度末までに2018年度比3%削減 ①節水活動 ②「水の管理計画」策定	●水使用量(生産量原単位) 9.4%削減(2018年度比)	◎
廃棄物の削減 ・	4. (1)廃棄物発生量を2024年度末までに2010年度比20%以上削減 (2)食品廃棄物の再資源化率95%以上の維持	●廃棄物発生量 28.0%削減(2010年度比) ●食品廃棄物の再資源化率 98.9%	◎
生物多様性の 保全と活用	5. 生物多様性の保全と活用 (1)自然保全活動の支援・参画 (2)生物多様性に関する教育の推進	●日本における植樹活動の実施(全国工場、研究所など15か所) ●海外における植樹活動の実施 ・2015年から「百万本植林活動」に参加し、活動を継続。(中国) ・世界各地で植林活動を展開するグローバルウェブプラットフォーム「ツリーダム」との提携活動を継続(ヨーロッパ) など ●オイスカ「子供の森」計画支援。	○

■マテリアリティ：イノベーション

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
商品・サービスを通じた社会課題の解決	1.社会課題解決に貢献できる商品の継続検討	●植物素材利用食品である「豆乳の力」3品を発売した。植物素材利用食品市場へ本格参入した。 （使用する大豆はSSAP認証※を取得。） ※環境への負荷が低く、サステナブルな方法で生産・管理された「アメリカ大豆」が使われていることを示すことができる認証制度。	◎
	2.社会課題解決に貢献できる研究の継続	●抗菌/抗ウイルス効果を有する素材の開発。 ●高齢者施設入居者および同施設スタッフに対する当社乳製品の腸内環境改善効果の確認。	○
	3.各国・地域のニーズに合った商品・サービスの検討	●低糖タイプの「ヤクルトライト」発売（ベトナム） ●「ヤクルトライトマンゴー風味」発売（インド） ●「ヤクルト ピーチ風味（鉄プラス）」発売（広州、中国） ●プラスチック容器回収アプリの開発・導入（インドネシア） ●事業所向けショーケース型自販機の導入（広州、中国） ●EC取引先拡大、EC旗艦店の開設（各海外事業所）	○

■マテリアリティ：地域社会との共生

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
社会貢献活動の 推進 ・ 地域課題解決への 貢献	1.出前授業、健康教室の 推進	●国内 ・出前授業：4,853回、参加人数280,868人(参加人数前年比：121.5%) ・健康教室：18,991回、参加人数356,199人(参加人数前年比：97.1%) ・美容教室：896回、参加人数10,009人(参加人数前年比：78.9%) ●海外：オンラインおよび対面での活動を推進し、地域のお客さまとのコミュニケーションの維持、強化に努めた。 ・出前授業：67,830回、参加人数4,523,617人(参加人数前年比：135.9%) ・健康教室：249,624回、参加人数13,217,655人(参加人数前年比：129.5%) ※集合型、オンライン合計。	○
	2.工場・中央研究所への 見学者の受け入れ 推進	●国内：・工場見学人数 約154,000人 ※集合型、オンライン合計。 ・中央研究所 来場型見学：162件、1,577人 ・中央研究所 中高生対象のオンライン企業訪問プログラムの実施。：10校 376名 ●海外：工場見学者人数 約1,090,000人 ※集合型、オンライン合計。	○
	3.愛の訪問活動、地域の 見守り防犯協力活動の 継続推進	●愛の訪問活動 ・実施販売会社：45社、101の自治体から要請を受けて実施。 対象高齢者数：26,842人、協力ヤクルトレディ数：1,945人 ●地域の見守り・防犯協力活動 ・実施販売会社：96社、1,092の自治体等と連携実施。 実施センター数：1,978、協力ヤクルトレディ数：25,223人	○

■マテリアリティ：地域社会との共生

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
社会貢献活動の 推進 ・ 地域課題解決への 貢献	4.地域課題解決への 貢献活動の推進	●遊技事業協同組合と連携した障がい者福祉施設における社会貢献支援活動を実施。 （25都道府県55施設、合計約55万本当社商品に年賀シール等の貼り付けを依頼） ●各工場や研究所近隣のイベントへの協賛や寄付、社会貢献活動を継続実施。 ●国立市と災害時の水供給について協定を締結、子ども110番への協力。 ●海外における各種シンポジウムを主催、共催。（6か所） ●「ピンクリボン」活動の実施（インド） ●大手EC運営会社量販店との共催による乳がん啓発月間キャンペーン実施（中東） ●糖尿病患者への健康情報提供（フィリピン） ●高齢者の見守り活動。「朝食1人前」（朝ごはん活動）を支援。（中国） ●子どもの医療への支援（メキシコ） ●地域の健康啓発プログラムの実施（マレーシア） ●食育セミナーの実施（インドネシア） ●高齢者や児童の貧困を含む、社会的弱者への支援。（イギリス、イタリア、ドイツ、インドネシア、広州） 等	○
	5.スポーツ振興の推進	●野球教室（現役選手）の開催：9会場863人、つばめスポーツ野球教室（選手OB）：7会場1,365人 ●「ヤクルトランニング教室」の開催 ●「ラグビー教室」開催 ●全日本バウンドテニス選手権大会の開催：5月（参加者：947人） ●日本バウンドテニスゴールド大会の開催：10月（参加者：92人）	○
	6.工場祭の実施による 地域との交流	●各工場の工場祭は中止。※2025年度開催予定	-

■マテリアリティ： サプライチェーンマネジメント

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
サステナブル調達 の推進 「安全・安心」な商品 の提供	1.サステナブル調達の 継続推進	●国内外サプライヤーのリスク把握。 ・CSR調達アンケート：144社 ・Sedex 自己評価アンケート(SAQ)の回答を活用：117社 ●サプライヤー向けCSR調達方針説明会をオンラインで実施。（約150社、約400人が参加） ●「Yakult（ヤクルト）1000」類、「ヤクルト400」類のラベル薄肉化によるプラスチック使用量の削減。 ●マスバランス方式によるバイオマス素材導入のため、ISCC PLUS認証を全国工場で取得。一部工場と同認証品のPS樹脂、シュリンクラベルの使用を開始。 ●化粧品の一部の個装箱に国際森林認証紙の包装資材を採用。	◎
	2.「安全・安心」な商品の 提供	●ヤクルトレディ向け冊子「けんちょう」に毎号「お届け品質」「基本対応・真心対応」に関する情報を掲載し意識啓発を実施。 ●ヤクルトレディ向けに、通年で「安全・安心」オンライン研修を実施による意識啓発の徹底（結果、お申し出件数が前年から300件減少） ●海外事業所への赴任者を対象に製造管理および品質管理に関する技術研修会を実施。 受講者：赴任予定者30人	◎

■マテリアリティ： サプライチェーンマネジメント

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
CSR調達の推進 ・ 「安全・安心」な商品の提供	3.各種国際規格認証の推進	●海外工場 ・取得数 ISO 14001(6)、HACCP(17)、ISO 9001(9)、ISO 22000(8)、FSSC 22000(3)、GMP(8)、ISO 45001(2)、SQF(2) ・ハラール認証(台湾、タイ2工場、フィリピン2工場、シンガポール、インドネシア2工場、マレーシア)	○

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
人権の尊重	1.人権デュー・ディリジェンスの推進	●採用活動における差別禁止の徹底。 （面接官への禁止・配慮事項に関する教育実施、採用ホームページ内に「雇用の差別禁止についての方針」を明示） ●本社にて階層別研修（新入社員・新6等級・新8等級）にて人権に関する研修を実施。 ●ヤクルトグループ全従業員を対象とした「ビジネスと人権」啓発月間の実施（動画資料によるeラーニング）。 ●Sedexを活用した、自社・サプライチェーン上の従事者の人権課題の調査。	○
ダイバーシティの推進	2.ハラスメントの防止	●階層別教育および海外赴任予定者を対象とした海外赴任前研修で、ハラスメント防止について啓発。 ●一部の販売会社、関係会社、ボトリング会社に対して本社法務部門がコンプライアンス研修を実施。 ●ハラスメント防止を目的とした研修動画を作成し、国内のヤクルトグループすべての従事者に対し配信 ●コンプライアンス担当者会議にて、外部講師を招き、ハラスメントに関する研修を実施。 ●2023年度に実施したコンプライアンス・アンケートの結果をふまえた、コンプライアンスやハラスメントに関する啓発資材（コンプライアンスかわら版）の発行。（年4回）	◎
ワークライフバランスの推進	3.ダイバーシティの推進	●本社女性管理職比率：13.4%（目標：2030年度までに20%以上） ※2025年3月末時点 ●海外事業所における女性活用状況の把握。 ・ヤクルトレディ：49,947人 ※2024年12月末時点 ・女性比率：取締役：15.8%、管理職：32.2%、社員：31.6% ●本社障がい者雇用率：2.61%（法定雇用率2.5%の維持）	◎
労働安全衛生の推進			

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
人権の尊重 ・ ダイバーシティの推進 ・ ワークライフバランス の推進 ・ 労働安全衛生の 推進	4.労働安全衛生の推進	●ヤクルトレディの労働環境整備のための資機材助成消化率89.2%、EV車両類助成消化率68.9%。 ●認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書取得数 600/628か所(95.5%)。 ●ルート車両新規導入助成車両に、安全装備（バックアイモニター、ドライブレコーダーなど）を装着。57台（装着率100%）。 ●一部本社工場にて、入社3年目以下の社員を対象とした危険体感教育・感電体験教育の実施。 ●各工場で安全衛生巡視を定期的に実施し、指摘事項の改善を実施。（改善率100%） ●中央研究所でヒヤリハット活動、応急救護訓練（AED）等の実施。 ●中央研究所でBCP マニュアルおよび防災マニュアルの見直し。 ●海外事業所において「労働環境調査」を実施。	○
	5.健康経営の推進強化	●本社が「健康経営優良法人（ホワイト500）」8年連続認定。 ●本社が「健康経営銘柄」に2年連続選定。 ●Web健康講座の実施（全3回：（①男女の健康、②睡眠、③メンタルケア） ●定期健康診断結果有所見者の再検査受診率100% ●【受診率】 乳がん検診 90%、子宮がん検診 79%	◎
	6.ワークライフバランスの 推進	●本社男性育児休業取得率：107%、男性育児休業平均取得日数：37日。 ※2023年度に子が生まれたものの、同年度には育児休業を取得せず、2024年度に育児休業を取得した従業員が含まれるため、育児休業取得率が100%を超過	◎

G（ガバナンス）

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
グローバル企業として ふさわしいガバナンス 体制の構築 ・ コーポレート ガバナンス・コードの 実践 ・ コンプライアンスに 則った事業の推進 ・ 企業情報の開示と 社会との コミュニケーション	1.コーポレートガバナンス・コードへの対応強化	●株主還元方針の変更、自己株式取得の実行。 ●各種経営会議の定例開催。（取締役会10回、執行役員会27回） ●社外役員の当社宅配事業に対する理解をより一層深めるため、センター（ヤクルトレディの活動拠点）の見学を実施。 ●指名・報酬諮問委員会の開催。（5回） ●サステナビリティ諮問委員会の設置および開催。（5回）	◎
	2.ヤクルト倫理綱領、行動規準の周知徹底	●階層別教育での説明やコンプライアンス担当者会議等で、「ヤクルト倫理綱領・行動規準」の再読促進や啓発を実施。	◎
	3.コンプライアンスの徹底	●コンプライアンスに関するグループの課題の解決に向けて「コンプライアンスかわら版」の発行（四半期に一度）。 ●さまざまなコンプライアンステーマを、職場単位で取り組める「グループワークスライド」として提供。 ●社内向けの法務情報提供データベースであるWebサイト「みんなの法務ルーム」に契約手続きに関する解説資料を掲載する等の内容の充実化。 ●コンプライアンス委員会（9月、2月）を開催、社外有識者である委員からの意見・提言。 テーマ：（9月）内部監査の状況、経理・財務の状況 （2月）サステナビリティ課題への取り組み、コンプライアンス推進状況 ●企業倫理委員会（11月）を開催、社外有識者を含む委員からの取引の監視活動の確認および意見・提言。 ●法令違反行為の早期発見・是正を目的とした、グループ会社も利用できるコンプライアンス・ホットラインを設置・運用。 2025年4月からの通報窓口の 拡充と通報対象者の拡大へ向けた準備を実施。 ●グループ内の企業倫理の確立を図るため新規取引先事前相談制度を運用。 ●グループ全従事者を対象にしたコンプライアンス強調月間（テーマ：アンコンシャスバイアス）を2月に実施。	◎

G（ガバナンス）

課題	2024年度 行動目標	2024年度の主な活動結果	達成度
グローバル企業として ふさわしいガバナンス 体制の構築 ・ コーポレート ガバナンス・コードの 実践 ・ コンプライアンスに 則った事業の推進 ・ 企業情報の開示と 社会との コミュニケーション	3.コンプライアンスの徹底	●ヤクルト本社およびグループ会社で、コンプライアンス担当者会議の開催（計6回）、法務情報の提供や担当者間の情報共有を実施。 ●海外事業所における内部通報制度の整備状況について、調査を実施。 ●「ヤクルト届けてネット」におけるセキュリティ対策の強化を目的とした、クレジットカードの不正利用を防止する認証システムを導入。 ●各工場において、日本版SOX内部統制の文書化更新や自己点検によるリスク管理の徹底。 ●中央研究所にて、研究倫理に関する教育（eラーニング）を実施。 ●海外事業所の健全性を確保するための各種監査の継続実施（対面監査の再開）。 ・J-SOX監査：ブラジル、ヨーロッパ ・業務監査：インドネシア、中国、無錫、ヨーロッパ、オランダ、ベルギー	○